

ダイジェスト版

ほんとは知らない 利用者さんの気持ち

～みんなで考える意思決定支援～

特定非営利活動法人

せたがや相談支援ネットワーク

相談支援センターポピー

理事長・管理者 中川 邦仁 丈

主任相談支援専門員・社会福祉士・公認心理師・介護支援専門員

本研修は・・・

利用者の「本当の思い」をどう引き出し、どう支えるか。

相談支援の現場で起きている“見えない壁”を、具体的な事例と支援技法から紐解く実践型研修です。

1. 障害特性を理解することが意思決定支援の第一歩

- 知的障害・自閉症・高次脳機能障害など、特性によって“伝え方”も“受け取り方”も違う
- 「はい」と言っても理解していないことがある
- 視覚支援・構造化・環境調整が大きな力になる

2. 本人の“選択”を奪わないために

- 成育歴の中で選択経験が少ない人が多い
- 同一性保持に合わせすぎると、選択の機会がさらに減る
- 本人が理解できる形で選択肢を提示することが最重要

3. 特性別の実践的アプローチ

- 知的障害(軽度～重度): 関係構築
→ わかりやすい選択肢提示
- 重症心身障害: 言語に依存しないコミュニケーション
- パーソナリティ障害: 情報の裏取り・冷静な対応
- 高次脳機能障害: 理解のズレを丁寧に確認

4. 家族の想いと本人の思いは違うことが多い

- 「本人は家にいたい」「家族は外にいてほしい」
- 親亡き後の生活像のズレ
- 否定され続けて“言わなくなる”ケースも
→ その溝を埋めるのが相談支援の専門性

5. 本人の“声”を拾うために必要なこと

- 味方であることを伝える
- 大袈裟なくらい褒める
- 年齢相応の対応を忘れない
- 言葉だけでなく、行動・表情・環境すべてが情報

6. 意思決定支援は“根拠に基づく支援”

- 感情型支援からの脱却
- ABA(応用行動分析)で行動の意味を読み解く
- 本人の変化に合わせた臨機応変な支援へ

7. これからの福祉に必要な視点

- 人材不足とニーズ増加
- DX活用・経営の持続可能性
- 「右手に技術、左手にそろばん」
- 利用者中心の支援を続けるための組織づくり

研修ではこんなワークも実施しました

- 日頃の支援に隠れている“意思決定支援”を見つける個人ワーク
- 事例をもとにしたグループディスカッション
- 「コーヒーを買いに行った後、どうする？」など実践的な問いかけ